

収支改善に係る検討について（イメージの共有）

1 楽団の収支状況

楽団の収支状況＜2018～2022 の 5 年分＋2023 の予定＞

（単位：円）

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (予定)
収 入	5, 271, 957	5, 986, 920	3, 367, 241	2, 643, 649	4, 652, 110	4, 951, 000
支 出	4, 073, 788	4, 615, 881	1, 087, 286	815, 479	3, 221, 541	4, 199, 000
次期繰越金	1, 198, 169	1, 371, 039	2, 279, 955	1, 828, 170	1, 430, 569	742, 000
繰越金推移	—	+172, 870	+908, 916	▲451, 785	▲397, 601	▲688, 569

※2020 年度は寄附金（100 万円）があった。

※音楽祭謝礼の大幅減等により次期繰越金（＝貯金）は減少傾向にあり、現状では増加の見込みはあまりない。

2 次期繰越金が減少する理由

様々な要因があるが、結局は「収入＜支出」の活動をしているから。

3 会計を破綻させずに活動を継続させていくには

- （1）後援会をつくり、支援してもらう。＜2022 年 12 月 10 日開催の役員会で菊池さんから＞
- （2）依頼演奏を増やすとともに、協賛金を募って収入を増やす。＜よく出る意見＞
- （3）客演指揮者やエキストラ等を見直すことで、支出を減らす。＜よく出る意見＞
- （4）団員から団員会費（団費）を徴収する。＜避けて通れない喫緊の検討課題か？＞

4 後援会設立や依頼演奏・協賛金増加の実現可能性は？

（1）後援会

- ・地元企業による支援事例が多いようだが、倉敷ではどうか？
- ・昨今の社会経済情勢からして、地元で支援の気運が盛り上がるか？
- ・誰がどこに声をかけるのか？←倉敷には 3 商工会議所（倉敷、玉島、児島）、1 商工会（真備）
- ・つくった後の維持管理（後援会事務局を外注？）、労力と得られる成果のバランスは？

（2）依頼演奏・協賛金増加

- ・依頼演奏のニーズが幅広くあるか？←ニーズがあれば困っていないのでは？
- ・誰が「営業」に回るか。←「営業先」に心当たりのある団員がいるか？

（3）（1）（2）共通の検討ポイント

- ・団員の勤務先で、メセナやCSR（企業の社会的責任）による支援制度はないか？
- ・職業上の制約があり、「営業」活動に従事できない団員もいるのでは？
→関係業界・団体等に対し地位利用との誤解を与えてはならない、また、プライベートで関係業界・団体等に「借り」をつくるような行動は避けなければならない職業もある。
- ・成果を上げるよう団員に強制するのか？
→成果を上げられない団員は演奏会に乗せない？除名？それは無理では？
- ・対応可能な人にお任せ？
→伝手の無い団員にとってはこれが理想？

5 客演指揮者及びエキストラ等の見直しができるか？

（1）客演指揮者

- ・客演指揮者の招聘は倉管定期の目玉であり、招聘取りやめはあり得ない？
- ・客演指揮者のクラスについては、高額な指揮者への依頼は慎重に行っている。
- ・今後もクラスに注意しながら招聘継続という判断か？

(2) エキストラ

- ・選曲の工夫等により、エキストラは必要最小限としている。
- ・エキストラの練習参加回数も必要最小限のものとしている。
- ・上記2点以上の対応が可能か？

(3) 関連して

- ・個別の演奏会等における赤字額を縮減することができれば、貯金の取崩しも少額ですむ。
- ・倉敷音楽祭を含めて演奏会での団員負担を見直すという選択肢もあってよいのではないか。
→定期のノルマ見直しや、音楽祭で必要に応じて団員に負担を求めていく等
→団員負担で演奏会を黒字にする必要まではない。あくまで赤字幅の縮減が目的

6 団員からの団費徴収について

(1) 収支改善への一番の近道

- ・3 (1) ～ (3) は、実現不能又は対応済みか？
- ・その他に具体的な収支改善策が出てくる可能性は低い？
- ・三助の精神（「自助・共助・公助」 by 上杉鷹山）の観点から、はじめに検討すべき手法か？

(2) 他団体の状況

- ・JAO加盟団体では、多くの団体で団費を徴収している。＜インペク原田さんから＞

(3) 徴収の理由

- ・なぜ団費の徴収が必要なのか、整理が必要
- ・本楽団ではなぜ「収入＜支出」なのか。←究極的には、やりたいことをやっているから。
- ・団費のほかに収支改善の手はないのか。←できることはしている。これ以上何を？
- ・その他？

(4) 団員の理解

- ・団員に対しては、楽団の収支状況や、団費徴収以外の収支改善方策が実施困難である旨を丁寧にアナウンスし、ある程度時間をかけて理解を得ていかなければならないか。
- ・できるだけ早期（可能なら団費制度導入の1年前くらい）に団員に対してアナウンスし、団費導入もやむなしという気運を醸成する必要があるのではないか。
- ・そうすると、役員会での検討も先送りができないか。

7 収支改善（主に団費）の検討に係るロードマップ（イメージ）

年	すること
2023	・役員会で収支改善に係る検討・議論、意思決定
2024 (50周年)	・団員への周知、団費の気運醸成、団費のルール・体制案等の整備
2025	・団費制度スタート（徴収は必要に応じて実施）

8 結論

- ・昨今の本楽団の収支状況からして、収支改善策の検討を急ぐ必要があることから、例えば今年度、その手法の検討を開始し、役員会として具体的手段に関する意思を決定してはどうか。
→資料冒頭の直近5年間の次期繰越金（貯金）の推移を参照
→2022年12月10日開催の役員会で、監事の樋口さんから「会計監査をしていて、楽団の収支が本当に厳しいという印象を受ける。」という発言等、各役員の漠然とした楽団収支への不安
→JAO／トヨタの活用が収支改善につながる？具体的にどうつながるのか要説明か？
- ・早く議論を始めた方が、広く深く話し合うことができるのではないか。
- ・実際に徴収するかどうかは別として、「団費制度」という備えがあれば憂いなしでは？